

佳作

元気である事

広島県 広島市立中筋小学校三年 西村 真生

いつも元気なばあちゃんが、急におなかがいたくなつて、入院する事になりました。ぼくは、

「えー。あのばあちゃんが病気になった？」とびっくりしました。

ぼくは、家族とばあちゃんのお見まいに行きました。病室につくまでぼくは、おねがドキドキしながらパパの後をついて行きました。

病室につきました。ぼくは入口からそつと中をのぞきました。ぼくは頭の中で、ぐったりしているばあちゃんをそうぞうしていました。

ベッドの上のばあちゃんは、いつもより元気がなかったけど、ぼくと弟を見るとうれしそうに、

「よう来てくれたねー。」

とわらって言うてくれました。ぼくは、ばあちゃんの顔を見てホツとしました。でも、ばあちゃんの手には、点てきのはりがさしてあって、いたそうでした。これから、十日間何も飲んだり食べたりしないで、点てきちりようをする事になりました。

「このまま手じゅつをしなくてもいいように」と思いながら、ばあちゃんとあく手をしてわかれました。

十日間の点てきちりようが終わった日、ぼくはママと弟とまたばあちゃんの所に行きました。今日のお昼ごはんを食べた後、おなかがいたくならなかったら、たい院できる事になりました。

ばあちゃんは、おか湯をゆっくり一口食べました。白身の魚を一口食べました。里

いもを一口食べました。そして、ぼくにも里いもをくれ、

「真生、おいしいねえ。」

とわらって言いました。

ぼくは、

「うん。」

とわらって答えました。

ばあちゃんはさい後まで食べ切りました。そしておなかもいたくありませんでした。

ぼくは、

「このままずっとばあちゃんのおなかがいなくなりませんように」と心の中でいながら、ばあちゃんとあく手をしてわかれました。

それから一週間後、ばあちゃんはい院できました。いつもの元気なばあちゃんにもどっていました。

ぼくは、おいしくごはんが食べられる事、元気である事がどんなにしあわせな事かがよく分かりました。ばあちゃんが、元気になるって、ぼくは本当にうれしいです。